

平成21年度第1回船橋市立医療センター運営委員会議事録（要旨）

- ・ 日程 平成21年7月29日（水）午後1時30分
- ・ 場所 船橋市立医療センター D館3階 講義室
- ・ 出席者
近藤委員、清水委員、福山委員、河野委員、栗原委員、深沢委員、高橋委員、三井委員、
須田委員、山崎委員、上村委員、鈴木委員、渡辺委員
- ・ 傍聴者 0名

1. 病院局長あいさつ

2. 委員の紹介

3. 運営委員会の運営方針の説明

【経営企画室長が運営委員会の運営方針を説明。】

4. 委員長の選出

推薦を受け、全会一致で近藤委員が委員長となる。

5. 副委員長の選出

推薦を受け、全会一致で清水委員が副委員長となる。

6. 会議の公開

船橋市情報公開条例第25条に基づき、本会議を公開することが決定された。

審議の中で、非公開とすべき事案が発生した場合には、その都度委員に諮りその事案については公開・非公開の判断をする。議事録は、要点を記録したものを閲覧に供する。医療センターの職員は、勤務する病院に対する審議であるので、傍聴者には含めず、自由に出席してもらおう。

7. 審議

【委員の自己紹介】

【鈴木病院局長が理事者を紹介】

【経営企画室長が医療センターの概要、経営状況、経営分析、21年度の取り組みについて説明】

委員：人件費の比率の中に、清掃、警備委託などの経費を入れるとどうなるのか。

経営企画室長：おそらく18～20ポイントぐらい上がる可能性がある。

委員：構造的に比較ができないと思うが、大学と比べると随分高いという感覚がある。

市の一般財源から繰入金の24億円は、千葉大学が国からもらっている運営費補助金とほぼ同額であり、すごい額をもらっているなという印象があった。

経営企画室長：20年度21年度は病棟改修によって病床数などが制限されるが、フルオープンになった段階で収益を上げていきたい。

委員：医業収益はベッド数からみるとかなりいいと思う。委託費の削減やDPCや看護師配置基準7対1の導入が非常に大切になる。医療センターで7対1をやれば、看護師が増えても2億くらい増収になると思う。7対1の導入が2年後になっているが、もっと早くやってもいいのでは。薬剤の値引き率はどのくらいか。

病院局長：収入はかなり良い。ただ、看護師配置基準7対1を含めて、まだとれる施設基準があると思う。支出は少しずつ改善していきたい。材料費に関しては、最近先生方が非常に協力してくれて、業者に値引き交渉をしてくれた結果、ペースメーカー、カテーテル、人工骨とうなどが下がって、支出も抑えられるようになってきた。

委員：医療センターあり方検討委員会の中でも委託費が1つのポイントとなっていたが、19年度と20年度の医業収益に対する委託費の割合を教えてください。

経営企画室長：委託費の割合は19年度も20年度も12.5%。医療センターあり方検討委員会に参加していたコンサルタントに、会議終了後、委託の見直しを依頼した。結局、これ以上手をつけられないという回答をもらった。今は、委託している内容を職員が精査して、委託事務を統廃合することで見直しをしている。新しくE館ができたことが、委託費が増えている原因の1つである。安全のために警備員を置かなければならないなど、委託費がかかってしまう現状がある。

委員：18年度は10.2%で、あり方検討委員会の中で縮減するべきという議論があった。収入を上げるとともに支出の見直しに尽力してもらいたい。

委員：委託費の中に人件費がかなり含まれていることを考えると職員の給与費が高い。

経営企画室長：先ほど話に出た薬品費の値引き率は11.83%です。

委員：少ない。世間は13～14%が普通。医療センターNewsを出したことは非常に良いこと。職員に病院の状況を知ってもらうことが必要。月に1回くらい各部署の代表が経営状況などを知るための会議はあるのか。

病院局長：診療科の部長や看護師長、技師長などからなる幹部の運営連絡会議がある。経営に関するデータを4月から出すようにした。

委員：良いことだと思う。ぜひ続けてやってもらいたい。

委員：医療センターについては主治医が忙しくて、患者を紹介した後のリアクションが乏しい、という話をいつも医師会員から聞く。我々に応えてほしい。

社会保険船橋中央病院が黒字なのに、医療センターはなぜ赤字なのか。全国の市役所

で船橋の給与が一番高いとも言われている。高い給与に見合うビジョンを持たないと何にもならない。医療センターが素晴らしい事業管理者を迎えられたので、医師会も協力して患者を送りたいと思う。

委員：先程病院局長が、制度上収益に結びつくものをやると大局的に言っていたが、例えば7対1の問題でも看護師を揃えるのは大変なこと。職員の性格にもよるが安定して病院にいてくれない。そういう努力が大変。先程委員がDPCで2億円くらい儲かると言っていたが、確かにそれに近い数字は出てくる。あらゆることをやるのが大事。薬品の値引き率や医療機器の値引きなど、議会で私も年中言われる。当院にはアドバイザーがいる。値引き率について世間の様子を良く知っているので利用している。医療センターは高度な三次救急をやっている。不採算部門が多いというのは、当院に照らしてもわかる。では、どこまでが不採算なのかというのはわからない。一度原価計算をやったら、大間違いを起こして救急医療が儲かる結果がでた。先ほど委員から受け入れても返事が来ないといった話があったが、当院も年中医師会の先生から同じことを言われている。職員が一生懸命やっていることは間違いない。事あるごとにちゃんと返事を出すようにとは言っている。幹部は承知しても現場に伝えるのは難しい。

委員：今の大学病院や公的病院は、昔に比べて若い先生にとって相当厳しい状況になっている。前に聞いたところによると研究費は2000万円～3000万円しかなかった。これでは研究意欲がなくなる。若い先生が学会発表できる機会を作ってあげることが、若い先生がこの病院に定着する1つのきっかけになると思う。

院長：紹介患者への対応については、月に1回診療科部長会でこのようなケースがあるといった話をしている。直接的に言うと、辞めてしまう者もいるかもしれないので、暗に伝えて改善しようとしている。研究については、ある自治体病院は発表などがある場合は、費用をほとんど出しているという話を聞いて、2年前から演者もしくは座長は全額出張費などを出すようにしている。それ以外に年2回まで自由に行ってもらっている。特に後期研修医はその回数を増やせるような措置をしている。

病院局長：研究費については、これから治験管理室を作って治験を始め、自分達で稼ごうと準備を進めている。

委員：医業収益と医療材料費の比率について18年度は18.4%と聞いている。19年度以降はどういう状況なのか。

経営企画室長：診療材料費の比率については、19年度は16.6%、20年度は16%。いろいろな病院と情報交換して価格交渉をして下げるようにしている。

副委員長：医療センターはアクセスが悪い。市がそういう環境整備をやってくれるとありがたい。医療センターの先生方は健診事業にとってなくてはならない存在になっている。公務員の壁があるのだろうが、そういうものを緩和して医師会のために働ければ、どちらのためにもなるのではないかと思う。

委員：病床稼働率が、第一線の病院としては低い気がする。大学病院の経験では収入は稼

働率を上げるしかない。医薬品の均一化とかコストダウンの問題になる。

院長：稼働率が90%を超すと救急がとれなくなる。今は大体92%で、ベッドを探すのに苦労する。95%を目標にすると救急を全部断らなければいけない。20年度の87%は少ないので、もう1~2%くらいは上げたい。

委員：今大学は7月に96%を超えている。平均で91~92%くらいになっている。僕も個人的には大学病院は80%がいいところだと思うが、それでは経営がやっていけない。国に出す目標数値が90%なので、実際には91~92%、瞬間的には95~96%をマークしていかないといけない。第1線の病院だともっと上げられるのではと思った。

病院局長：この病院は救急患者が非常に多い。入院の35%くらいが救急患者で、それを受け入れるのに、看護部は非常に苦労している状況がある。木曜日、金曜日の稼働率は97%くらいになっている。5月、6月の平均在院日数は11日を切る状況になっている。これ以上は無理な気がする。

委員：わかります。アメリカでは大学病院は60~70%くらいだ。ファイナルの病院としていつでも受けられる体制をとるためには、90%はクレイジーだ。ただ、経営の問題があって、大学も今矛盾を抱えたままだ。

病院局長：最近一般の入院患者の単価が5900点くらいになっている。救急も含む平均では5600点くらいになっており、先ほど言った入院時医学管理加算などの新たな施設基準分が入っていない中でこの状況なので、医師や看護師にはかなりの負担をかけている状況にあると考えている。

委員：在院日数が12日とは素晴らしい。当院は14日そこそこだ。

病院局長：普通は14日くらいだろうが、今病院の工事をしており、病床が足りない中、患者が来るので、帰しているという状況だと思う。

委員：看護師も患者の出入りにいろいろな書類があるので、大変だと思う。12日とは本当に素晴らしいと感心している。DPCをやっていないと単価が5600点とはすごいことだと思う。職員の給与が高めという話があったが、収益に関しては素晴らしく働いていることになるのではないかと思う。職員の方々がヘトヘトにならないように職場環境を良くしないといけないのではと思った。

委員長：今回は第1回ということで、病院側に説明してもらい皆さんから質問や指摘を受けて病院も参考になったのではないかと思う。病院の数値だけを見るのではなく、医療センターの職員が委員の皆さんの病院と交流すれば、より参考になると思う。

8. その他

次回は来年2月中に、原則として午後1時30分から2時間程度、医療センターにおいて開催する。日程は、事務局が調整する。